

分析結果報告書〔4〕 1/2

1. 4 模擬排水試料 (ほう素)

機関コード	
機関名	
電話番号	
国際的な認証等の取得 (複数回答可)	1. ISO 9001~9003 2. ISO/IEC 17025(か'ト`25) 3. MLAP 4. 環境省が実施するダイオキシン類の請負調査の受注資格 5. (上記1~4を取得していないが)品質マネジメントシステム(QMS)を構築している
分析主担当者名	
分析主担当者の経験年数	()年
分析主担当者の実績 (年間の分析試料数)	()
分析(主)担当者以外の分析結果の確認	1. あり 2. なし

<重金属類の分析経験等>

廃棄物の重金属類成分	1. 分析したことがある 2. 分析したことがない
土壌の重金属類成分	1. 分析したことがある 2. 分析したことがない
環境水、排水等の重金属類成分	1. 分析したことがある 2. 分析したことがない

<分析結果>

測定回数 注1)	分析結果 (mg/L) 注2)	
	検出下限値以上 注3)	検出下限値未満での検出下限値 注3)
1回目		
2回目		
3回目		

注1) 分析用試料のはかり取りから測定までの一連操作を行った回数。

注2) 「分析結果」については、「検出下限値以上」又は「検出下限値未満での検出下限値」のいずれかを記入する。

注3) 検出下限値以上は有効数字3桁、検出下限値未満での検出下限値は有効数字1桁で記入する。

<分析方法等>分析方法については、必ず記入する。

分析開始月日	月 日
分析終了月日	月 日
分析方法	1. メチレンブルー吸光光度法 2. アゾメチンH吸光光度法 3. ICP 発光分光分析 4. ICP 質量分析法 5. その他 ()
使用した水	1. 蒸留水 2. 伏交換水 3. 超純水 4. その他()

<吸光光度法>

試料量	()mL
測定波長	()nm

<ICP 発光分光分析法>

ろ過等の操作	1. 行わない 2. ろ過 3. 遠心分離 4. その他()
試験溶液の希釈倍率	() 注1)
ICP 発光分光分析装置 メーカー 型式 製造年 (又は導入年)	1. アジレント 2. サーモサイエンティフィック 3. 島津 4. パーキンエルマー 5. 日立ハイテク 6. その他:メーカー () 型式 () ()西暦
スペクトル干渉の低減又は補正 発光部(光観測方式) 分光部 検出部 バックグラウンド補正 超音波ネブライザーの使用 スプレーチャンバーの材質 測定時間 測定波長	1. 横方向 2. 軸方向 3. その他() 1. ツェルニ・ターナー型 (シークエンシャル形) 2. パッシュェン・ルンゲ型 (同時測定形) 3. エシエル型 (同時測定形) 4. その他 () 1. 光電子増倍管 (フォトマル) 2. 半導体検出器 3. その他 () 1. 行う 2. 行わない 1. 使用しない 2. 使用する 1. ガラス製 2. 石英製 3. 樹脂製 4. その他 () ()秒 ()nm
装置メモリー低減対策の実施状況 (バックグラウンド低減対策) 低減方法	1. 実施した 2. 実施しなかった 1. 水による洗浄 (使用した水の種類:) 2. その他の方法 ()

注1) 希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

分析結果報告書〔4〕 2/2

<ICP質量分析法>

ろ過等の操作	1. 行わない 2. ろ過 3. 遠心分離 4. その他()
試験溶液の希釈倍率	() 注1)
ICP質量分析装置 メーカー 型式 製造年(又は導入年)	1. アジレント 2. サーマサイエンティフィック 3. 島津 4. セイコー 5. パーキンエルマー 6. 日立ハイテク 7. その他:メーカー() 型式() () 西暦
スペクトル干渉の低減又は補正 質量分析計 コリジョン・リアクションセル 補正式による補正 その他	1. 四重極 2. 二重収束 3. その他() 1. 行わない 2. 行う 「2. 行う」場合の使用ガスの種類 1. ヘリウム 2. 水素 3. メタン 4. アンモニア 5. キセノン 6. その他() 「2. 行う」場合の使用ガスの流量()mL/分 1. 行わない 2. 行う(その方法の概要: 補正前の指示値() 補正後の指示値() 注2) 1. 行わない 2. 行う()
超音波ネブライザーの使用	1. 使用しない 2. 使用する
スプレーチャンバーの材質	1. ガラス製 2. 石英製 3. 樹脂製 4. その他()
装置のメモリー低減対策の実施状況 (バックグラウンド低減対策) 低減方法 使用する洗浄液の種類	1. 実施した 2. 実施しなかった 1. 水による洗浄 (使用した水の種類について次の設問にご回答下さい) 2. その他() ()
積分時間(質量数毎)	() 秒
質量数	()

注1) 希釈しない場合には、希釈倍率を「1」とする。

注2) 指示値としては「イオンカウント値」等を記入する。

<検量線の作成等> 共通(吸光光度法、ICP発光分光分析法、ICP質量分析法)

定量方法 内標準法:内標準物質の種類	1. 絶対検量線法 2. 標準添加法 3. 内標準法 1. イットリウム(Y) 2. インジウム(In) 3. イッテルビウム(Yb) 4. タリウム(Tl) 5. ビスマス(Bi) 6. ベリリウム(Be) 7. ロジウム(Rh) 8. レニウム(Re) 9. テルル(Te) 10. ガリウム(Ga) 11. ゲルマニウム(Ge) 12. スカンジウム(Sc) 13. コバルト(Co) 14. その他()
検量線 作成点数 作成範囲 最高濃度の指示値	() 最小()~最大() 注1) 作成範囲の単位: 1. μg 2. mg/L 3. その他() ()
試料の指示値 対象物質 内標準物質	1回目() 注2) 2回目() 3回目() 1回目() 注3) 2回目() 3回目()
空試験の指示値	() 注4)
検出下限値	()mg/L 注5)

注1) 吸光光度法では分液漏斗に取った量(μg)、ICP発光分光分析法及びICP質量分析法では分析装置で測定する溶液中の濃度(mg/L)を示す。

注2) 対象物質の指示値を記入する。標準添加法では「添加のない試料」の値を示す。

注3) 内標準法を用いた場合のみ、内標準物質の指示値を記入する。

注4) 標準添加法では記入しない。

注5) 試料中の濃度(mg/L)を示す。

分析実施にあたっての留意した点及び問題と感じた点	
--------------------------	--

計算式	
-----	--